

韓国国立中央図書館の中長期発展計画（2014～2018）

国立中央図書館 企画総括課
金昇靖（キム・スンジョン）

国立中央図書館には、国家代表図書館として国内外の知識情報資料を網羅的に収集・整理し、国民が便利に利用できるよう提供し、後世の利用のために保存し、国内図書館界の発展を支援・先導する責任があります。よって、2005 年の開館 60 周年を契機に「国立中央図書館 2010」を策定し、世界的な国家図書館として跳躍するためのビジョンと戦略を確立し、2008 年にはデジタル図書館建設の推進など、環境の変化に応じた対応戦略を具体化して「国立中央図書館 2009～2013」を策定、推し進めてきました。そして「国立中央図書館 2009～2013」の総仕上げに取り組みつつ、これまでの推進成果を評価し、情報技術の発展に伴う環境の変化に対応した国家の知識ハブとして確固たる地位を築くため「国立中央図書館 2014～2018」を策定し、今後 5 年間の目標と課題を提示しました。

私たちは中長期発展計画策定のため、2012 年から発展フォーラムなどを開催して図書館の中核業務への提言を受け、SWOT 分析を通じて図書館内外の環境および現状を診断し、それに沿った対応戦略を用意しました。また、館内に機能別に 6 つの実務タスクフォース（収集、書誌、利用サービス、保存、障害者サービス、子ども・青少年サービス）を構成・運営し、各タスクフォースの研究結果を総合した草案を作成した後、外部の専門家の諮問意見を反映して草案を補完し、2013 年末に「国立中央図書館 2014～2018」を策定しました。

これまで国立中央図書館は、2006 年の国立子ども青少年図書館に続き、2009 年にデジタル図書館、2012 年に国立障害者図書館、そして 2013 年に国立世宗図書館を開館して図書館のインフラを拡充し、2013 年末に蔵書が 937 万冊（点）に達するなど、量的に大きく成長しました。しかし、日常生活にまで深く入り込んだデジタル環境に対応するためのサービスの革新と国家知識情報資源の網羅的収集・保存という基本的な責務の遂行において、部分的にはやや不十分な状況です。インターネットを活用して知識情報を簡単かつ便利に利用できるようになったことや、ゲーム・映像文化と SNS の普及などによって図書館を通じた知識情報の取得需要は減少しており、図書館のデジタルコンテンツの拡充、所蔵資料検索の効率性、書誌情報の品質など、利用者サービスの改善の必要性が提起されています。また、

電子書籍、ウェブ資源および SNS などのデジタル知識情報資源の国家的な収集・保存の必要性は増大しているものの、この収集・保存のためのインフラは不足しているのが実情です。従って、この計画はデジタル・モバイル環境においてより簡単かつ便利に図書館の資料を利用できるようサービスを革新し、収集・保存インフラを拡充することに力点を置き、「収集・保存の強化」、「利用サービスの高度化」、「図書館界への支援・協力の強化」という 3 大目標を設定し、そのために 9 つの主要な推進課題を提示しました。

<ビジョンおよび目標>		
創造的な知識文化強国を先導する 国家代表図書館		
ビジョン		
目標		
・国家 知識情報資源の収集・保存の 強化	・知識情報資源利用サービスの 高度化	・図書館界 発展のための支援・協力の 強化
1、 国家知識情報資源の 収集基盤の構築	1、 全国書誌の標準化および 活用性の向上	1、 図書館における専門人材の 職務能力の向上
2、 国家知識情報資源の 網羅的収集	2、 知識情報サービスの先進化	2、 国内外の図書館の支援およ び交流・協力の強化
3、 国家知識情報資源の 保存管理の強化	3、 利用者別情報サービスの 高度化	3、 図書館発展のための 調査研究の強化

第 1 の目標：国家知識情報資源の収集・保存の強化

国立中央図書館の重要な責務は、国家代表図書館として知識情報資源を最大限に収集し、後世のために完全保存することです。このため、現在急増しているオンライン資料のうち、電子書籍など国際標準番号が付与される資料の場合は、オフライン資料と同様に選択的収集ではなく納本による網羅的収集の対象とし、政府と公共機関の生産する資料の場合は、印刷物だけでなくデジタル資料も納本するよう図書館法改正を推進し、デジタル知識情報資源の納本収集の根拠を準備する予定です。また、ウェブ文書、SNS など、オンラインで流通している知識情報の収集強化のため、ウェブ情報資源の収集システム (OASIS) の収集容量と深度を拡大してデジタル情報資源を拡充する計画です。さらに、これまで国外で発行さ

れる韓国関連資料には納本の義務が課されていなかったため、選択的に収集していましたが、今後はこれらの網羅的収集を目標として積極的に取り組む計画です。

蔵書の増加とメディアの多様化の傾向に合わせて大量保存処理システムを導入して印刷資料の原型を保存・復元処理する能力を拡充し、視聴覚資料・電子メディアへのアクセスおよび再生可能性を保障するためのメディア変換処理能力も拡大する計画です。このため、現在の「図書館研究所」を「資料保存研究センター」に拡大改編する予定です。「資料保存研究センター」は、所蔵資料の保存・復元だけでなく国内の他の図書館が所蔵している資料の保存・復元を国家知識情報資源の保全の次元で支援する予定であり、国家記録院など、保存関連の専門機関と協力して保存関連技術の研究開発にも力を注ぐ計画です。

第2の目標：知識情報資源の利用サービスの高度化

図書館資料の書誌データをウェブ上でも活用できるよう「リンクトオープンデータ（LOD）」に変換して2015年までに書誌データ800万件、典拠データ79万件を開放、2014年にはバーチャル国際典拠ファイル（VIAF）に参加し、国内の典拠データを開発・共有することによって、外国で国内の作家や作品を容易に検索できるよう支援する計画です。デジタル・モバイル機器を通じた知識情報のアクセシビリティを高めるため主要な蔵書のデジタル化を2018年までに94万件に拡大し、現在試験サービス中のモバイル原文利用サービスを本格的に実施して、2018年には約50万件的原文を提供する予定です。また、国内の孤本・稀覯本・韓国学関連資料などのデジタルコレクションを構築し、オンラインサービスとして提供する予定です。

2013年12月12日の世宗図書館の開館を契機に、公務員が政策の策定・執行などに必要な政策情報を簡単に入手・利用できるよう本格的に政策情報サービスを提供する計画です。これは、公務員が政策情報の入手・利用の際に、官庁付属の研究機関、傘下団体または外部委託研究に依存していることにより、迅速かつ幅広い情報の利用が難しく、政策立案能力が制限される問題点を解消するためのものです。このため、国内外の学術誌の統合検索ソリューションを導入して国内外の学術誌約5万5千タイトルを統合検索できるよう支援し、国内外の2万タイトル以上の学術誌のうち、利用者が選択した学術誌の新刊の目次を電子メールで提供する「学術誌新刊目次メーリングサービス」を提供します。また、国家・公共機関、民間研究機関の政策情報を共同活用するための「政策情報協力ネットワーク」を運営し、参加機関の所蔵資料の共同目録の構築、国策研究機関などの所蔵資料の受託保管および共同利用、相互貸借サービスなどの事業に取り組みます。

国立障害者図書館を中心に、障害者を対象にしたモバイルサービスを強化して学術研究資料のウェブアクセシビリティおよび利便性を高めるために法制度などを整備し、関連システムを改善する計画です。代替資料の製作・共有の拡大のために代替資料の共同活用のた

めのクラウドサービスのインフラを構築し、障害のある大学生の学習支援サービスなど、代替資料製作サービスの活性化を通じて障害者の知識情報へのアクセシビリティを拡大する予定です。また、公共図書館の障害者サービス向上のため、障害者の読書補助機器の拡充を支援し、障害者のための図書館資料の無料郵送サービス（チェンナレ¹）の利用対象者を拡大する計画です。

子ども・青少年サービスの強化のためには、公共図書館および学校図書館を基盤とする読書活動および文化プログラムへの支援を拡大し、ライフサイクルごとにオーダーメイド型読書プログラムを開発・支援することによって、子ども・青少年の読書人口の拡大や、読書の雰囲気づくりに取り組んでいます。

第3の目標：図書館界発展のための支援・協力の強化

国立中央図書館は司書の専門教育訓練機関として、毎年公共図書館など、あらゆる館種の図書館職員を対象に専門教育訓練課程を運営しています。急増する教育訓練の需要と、知識情報をめぐる環境の急速な変化に対応できる司書の職務能力の開発などのため、全館種の図書館員の教育訓練を行う「司書教育院（仮称）」の設立に取り組んでいます。また、常時学習支援のためのサイバー教育コンテンツの開発を拡大し、館種別、経歴／職級／職務別教育の需要に応じたオーダーメイド型の教育課程を運営する計画です。

図書館界の発展のため、国内外の環境変化に対応した調査・研究機能を強化して図書館の先進化を図ります。国内の図書館間での情報資源とサービスの共有・協力のため、一枚の図書館会員証で、全国の公共図書館の資料を借りられる公共図書館統合図書サービスを構築、支援して、図書館間相互貸借サービスの活性化に取り組みます。

また、国家代表図書館として、主要な外国の図書館および国際機関との交流・協力を活性化し、海外の韓国資料室設置のための支援を拡大する計画です。海外の韓国資料室、韓国文化院、世宗学堂および海外の韓国学関連の司書が勤務する図書館に対して国立中央図書館の構築した原文資料の提供を拡大する予定です。あわせて、日中韓電子図書館イニシアチブ（CJKDLI）を通じて3か国の国立図書館が所蔵するデジタルコンテンツへの相互に自由なアクセスおよび利用が可能な環境を構築する計画です。

創造的な知識文化強国を先導する国家代表図書館

国立中央図書館は1945年に開館して以来、国内で発行される知識情報資源を網羅的に収集し、保存する最後の砦の役割を果たしています。毎日のように新しいウェブサイトが生まれ、SNSを通じて膨大な情報が行き交うオンライン・モバイル時代の到来を迎え、国家的

¹ 訳注：「本の翼」の意。

に重要な知識情報資源をもれなく収集・保存して提供する任務の重要性はますます強まっています。この中長期発展計画は、国立中央図書館がデジタル・モバイル環境において、こうした役割を忠実に遂行することにより、国家知識情報資源のハブとしてしっかりとした地位を固めるためのものです。